

目的 あらゆる分野での多様化現象が見られる現代、各家庭においても、独自の生活が営まれ、楽しまれる傾向にあると思われる。そこで、より良い住空間を追求していくことを目標として、住生活における中心の場であるだんらん空間を取りあげ、主婦の、生活に対する意識構造や環境条件が、だんらんのあり方及びだんらん空間にどのように反映しているかについて検討を加えた。今回は主に年令別に生活意識を比較し、加えて、だんらんの実態についても報告する。

方法 対象地域は、大阪府下の民間分譲マンション、3ヶ所とし、3LDK程度以上の規模をもつ住戸を選んだ。方法はアンケート用紙を配布し、留置法で行った。調査期間は1983年、5～6月。配布数、424戸、回収率、89%である。内容は、生活意識として、衣食住生活、家庭管理、生活時間、コミュニティ、生活設計などを、だんらんについては、行為の実態と意識、及び住戸プランとの関係についても調査した。

結果 日常の過ごし方では、主婦年令が若いほど積極的に趣味活動や、家族のコミュニケーションに時間をあてている上に、さらにだんらんの量的、質的向上を望んでいるのに対し、40～50代では、現状にほぼ満足型が多い。一方季節的变化に応じた、家具、インテリア用品などの物品の取り替えは年令とともに増加し、日常の過ごし方との関係からも生活志向の違いが見うけられる。一日のだんらん時間は平均約2時間であるが、長時間もっている例は、年令が増すほど多い。家族の参加のし方からみた、だんらんの評価には年令差は認められづらいが、実際にもっているだんらん時間との間には、やや相関が認められる。